

研究タイトル:

日本語と英語のリズムの違い

氏名:	岡下 朋世 OKASHITA Tomoyo	E-mail:	t.okashita@maizuru-ct.ac.jp
職名:	助教	学位:	学士(人文科学)
所属学会・協会:	全国英語教育学会, 関西英語教育学会		
キーワード:	言語リズム, 音節とモーラ, 英語教育		
技術相談 提供可能技術:	・音声学 ・英語教育		

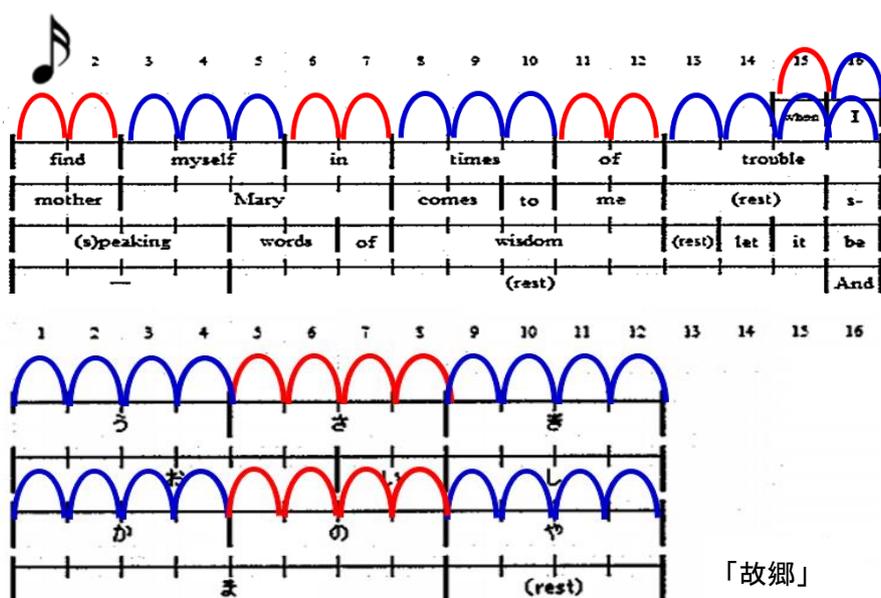
研究内容: 日本語と英語のリズムの違い

私は言語におけるリズムの違いについて研究しています。特に英語と日本語は違いが顕著で、英語学習者にとって英語の発音や聞き取りが難しいと感じさせる要因の一つになっています。英語は強勢拍リズムを持つ強勢拍言語、日本語は音節拍リズムを持つ音節拍言語に分類されます。

強勢拍リズムとは、文中の強勢アクセントから次の強勢アクセントまでの時間が等間隔になるように刻まれるリズムで、強勢のある音節は長く強く、強勢のない音節は短く弱く発音されます。そのため、隣接する母音の長さの変動が大きく、リズムカルな言語といえます。一方、音節拍言語とは音節より小さいモーラ(子音+短母音)がそれぞれ等時的に発音されます。英語の強勢拍リズムより、単調な印象を与える言語です。

このような言語のリズムは、発話だけでなく音楽にも反映されることが明らかになっています。そして器楽曲に限らず歌にも言語リズムが反映されており、それぞれの音節・モーラの長さを音符を使って視覚化(1音節を 16 分音符で表示)することで、より言語リズムの特徴を浮き彫りにすることができます。例えば、The Beatles の 'Let it be' と「故郷」を比較してみると、前者は隣接する音節の対比が大きくリズムに強弱があることがわかります。

このように言語リズムの違いを知ることは、リスニングやスピーキング力の向上にも繋がると考えています。「英語がうまく話せない」「聞き取るのが苦手」といったお悩みを少しでも解消できるよう、お手伝いさせて頂きたいと思います。



The Beatles 'Let it be'

「故郷」

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)